

○長年の政策課題を追って

政権を離れたこともあって、私自身の政策課題に以前よりじっくりと取り組むことが出来るようになりました。

防災関係の総合的な法案作成に、民主党のプロジェクトチーム座長として取り組んでいます。災害が起きたときに、その都度あわてて特別な法律を国会で審議して対応してこなければならなかったことが救援と復興の遅れにつながっています。自民党は公共事業中心の強靱化法なるものを作ろうとしていますが、視点が違うと思います。国民や民間企業の災害への備えを進め、国家的なリスクに対応できる危機管理も含めた対案を出す準備をしています。

また、出来るだけ早く立法化したいのが、電子書籍関連の著作権法です。本や雑誌をウェブ上で売買して、タブレットで読める時代が来ています。一方で、海賊版や違法ダウンロードなどで、作家や出版社の権利がおかされるという問題が深刻になっています。しかし、日本では、この新しい時代に対応できる著作権法の整備が出来ていません。文科副大臣の時に立法作業を開始しましたが、時間切れで中途半端になっています。退任したあと、作家や出版社などの皆さんと「中川勉強会」を立ち上げて議員立法を作ってきました。仲間の議員を集めて、法律の具体化を進めています。

ミャンマーでは人口全体の40%を占める少数民族と中央政府との間で長期にわたる武力紛争が続いています。この和解に向けた活動の支援をしています。日本に在住するミャンマーからの難民を中心に、「ピース」というNPO団体も設立されました。ミャンマーに対する日本の本格的な投資が始まろうとしている時だけに、この国が民主化されて安定することは大切です。スーチーさんを中心とする民主化運動だけでなく、少数民族との和解が出来てミャンマーが安定するので

です。さらに、大学改革や、コミュニティースクールの推進など、引き続き取り組んでいきたい課題が山積しています。

○アベノミクス、再検証

国会で予算審議が続いています。景気対策の三本の矢の一つで、なりふり構わず財政支出を膨らませ、補正予算と合わせると10兆円を超える公共事業が復活、防衛予算の増とあわせて、これを賄うために、これまでの44兆円という国債発行限度額のタガが外れて、50兆円を超えるものとなっています。

しかし、もう一方では、補正予算が国会を通過したことで、地元の公共事業の発注に弾みがついています。5兆円に及ぶ公共事業の追加が、私たちの足元では、鈴鹿川流域などを襲った集中豪雨による災害関連予算や、中勢バイパス、北勢バイパスなど懸案の道路工事などに配分されて、その進捗が大きく加速されています。私も大いに予算取りを進めました。

足元で景気を刺激して、道路工事や災害対応などの事業が進むと、確かにみんながハッピーな気分になります。しかし、財源は、みな借金で賄っていることには違いないわけで、これは、私たちの世代が将来世代の財源を先取りして、今をしのぐ姿でしかありません。一時的には景気が刺激されますが、社会構造を変えるまでの効果がなければ、状況は元に戻って、国が借金で破綻するリスクがさらに大きくなるだけです。

民主党政権時代にも、今回ほど極端でないにしろ、借金は増え続けていました。しかし、使い道は違います。年金、医療などの社会保障や、子ども手当、教育の無償化などの子育て支援を通じて、将来世代が少子化による人口減少を克服することができるように、生活の安心感を作ることを目指していました。自信に満ちた日本を作ることに挑戦していました。しかし、残念なことに、こうした政策で、人口減少が止まったなどの結果が出るのは、20年、30年先になります。本当は、今のような一時しのぎの議論ではなく、長期的な視野で日本の国の形を議論して、現状は苦しくとも、将来に必ず夢が描ける政策が、今、必要なのです。

○参議院選挙です

今夏は参議院選挙です。三重県では、高橋千秋さんが民主党の公認で出馬予定です。身近なところで汗をかいて、国民目線で仕事を積み重ねる高橋さんの真摯な姿勢が共感を呼んでいます。

先日、高橋夫人と梅祭りの会場を一緒に廻りました。奥さんは、本人以上に人気があるようです。沢山の人が声をかけて下さいました。

皆さんも、国政報告会や街頭演説など、見かけたらぜひ直接お声掛けください。